

## WA!



No. 15



## 「共育の場」

先日の上曜学校でのこと。子ども達と共に仏参をしている途中、法話を考えていなかったことを思い出した。何を話そうか考えていたが、直ぐにはまともならず、ちょうど一年前にした話が頭に浮かんで来たので、まあいいかという安易な気持ちで、その話しを試してみた。

すると、子ども達からは即座に「それ前に聞いた」という反応が返ってきた。聞いていないようでちゃんと話を聞いてくれていたことに嬉しさを覚えながらも、私の準備不足を反省し、より伝わりやすい法話ということを意識するようになった。

これが長年お聴聞を重ねてくださっている方であれば、上手いことはめそやしてくれるかもしれないが、子ども達が相手だとそうはいかなくなる。永いこと土曜学校を行っていると、ついつい情性に流されてしまったり、今月はちょっと手を抜いてしまおうかなんていう怠け心がよぎったりする。

そんな時に、自らを戒めてくれるのが、子ども達の素直でもあり、厳しくもある言葉である。「教育」とは「共育」でもあると言われるが、そんな子どもの声に私が育てられているのである。

少年教化活動とは決して一方的なものではなく、指導者と子ども達が共に育っていく場でもあるのだらう。そして、その中で交わす言葉は、子ども達に必ず伝わっていく。とかく、少年教化活動は地道であり、続けていくことは楽なことではないが、「共育」の場であるからこそ、続けていかなければならないのだと感じる。



## 『お寺でサイエンス』

中・四国ブロック  
少年連盟指導者研修会

平成24年7月4日～5日に備後教区の担当により、福山市のアルセを会場として、中・四国ブロック少年連盟指導者研修会が行われました。

中・四国の5教区（安芸・四州・山陰・山口・備後）より約80名の参加があり、研修・懇親会ともに参加者の熱意で盛り上がる2日間となりました。

研修会では、ご講師にサイエンス・インストラクターの山縣圭子先生をお迎えして、『お寺でサイエンス』をテーマにご講演いただきました。

たくさん披露された実験の中から、「おととびっくり、音、おと、実験」をレポートします。

タイトルの通り、音の伝わり方を色々な物を使い実験しました。その中でも「糸でんわ」の実験では、子どもの頃に遊んだことを思い出しながら、新しい発見に一喜一憂しました。

始めに、紙コップに糸を通した普通の「糸でんわ」で会話をして、普通に聞こえることを確認しました。

次に糸をゴムに替えたもので会話をすると、音が遠くなり聞こえにくくなりました。音の伝達は振動によるもので、振動を吸収するゴムは音がほとんど伝わらなくなります。その反対で「糸16号」という張りのよいものに替えると、振動の伝達がよく、凄く声が響きよく聞こえる「糸でんわ」となりました。また、糸をからませると4人で会話することもできました。

さらに、紙コップの穴を大きく広げ、長いロケット風船（※風船はカナダ製のものが最も割れにくい）をはめた「風船でんわ」は、風船の中の空気とゴムが振動して1番

聞こえるものとなりました。これも風船の中の空気が少なくなりしほむと、音が振動しなくなり聞こえなくなります。

次の実験では、プラスチックコップを使いペットボトルの筒にスプリングを通してつないだ「エコーマイク」を作りました。音の振動をバネで行ったり来たりさせることによって、エコーが生まれます。こだまのように声が響いて、きれいな声に聞こえます。

山縣先生は、これらの実験を通して、人と人との会話の中に言葉伝える大切さを知り、想いを響かせて伝えることの喜びを体感して欲しい。また、騒いでいる子どもを叱る時でも、大きな声で叱るだけでなく、小さな声で聞かすことも大切である！と話されました。言葉伝えること、聞き入れること、その両方が整わないと会話は成立しないことを、気づかされた講演となりました。

指導者は、子ども達と触れ合う場面で、上手く「言葉伝えること、聞き入れること」は何より大切なことだと思います。ちなみに今の子どもの1割しか、「糸でんわ」で遊んだ経験がないそうです。身近にある物を使って、新しい発見や驚きで盛り上がった『お寺でサイエンス』の研修会。是非、お寺で実践してみたいと思います。

※今回の実験では、世界最高の水準のカナダ製 Qualatex 社の風船 260Q と360Q を使用。

※広島市こども文化科学館のサイエンスショー・たのしい工作室なども参考にしてください。「気になるスポット探訪」で特集!!



やま がた けい こ  
山 縣 圭 子先生  
(サイエンス・インストラクター)

米村でんじろう先生に師事。

現在は広島市こども文化科学館や

小学校等で、「科学の楽しさ」「自然環境」

「命の大切さ」をテーマに指導。

広島市在住。





## 第45回報恩講子ども大会

平成24年10月27日土に「第45回報恩講子ども大会」が広島別院において開催されました。300名をこえる参加があり、子ども達の元気な声が別院に響き渡りました。

開会式では各単位で作製したプラカードを持って入場、照栄寺土曜学校の杉本碧泉さんが調声をし、全員で「らいはいのうた」を唱和しました。

続いて加藤広慶先生・賀茂東組・教得寺によるご法話があり、楽しいお話に子どもたちも引き込まれていました。その後は、恒例の「わいわいランド」でした。今回から手作りの割りばしゴム鉄砲を使った「射的」が初登場。なかなか的に当たるのは難しそうでしたが、時間を過ぎても賑わって楽しそうでした。

午後からのアトラクションは、「東広島青少年オーケストラ」の皆さんによる演奏会。本格的なクラシックから子ども達にも馴染みの深い曲まで演奏していただき、時には大合唱となつて、大変盛り上がりしました。

今大会も皆さんの協力のおかげで盛会のうちに終えることができました。食事コーナーで食べ物を買ったときには「ありがとうございます」「ゲームコーナーで遊んだあとは「ありがとうございます」と子ども達からスタッフに向けて、お礼の言葉が聞こえた時には、とてもうれしかったです。

なお、今大会で集まったキャンディー募金は昨年と同様に、東日本大震災の義援金として寄付することになりました。まだまだ終わらない復興の手助けとなれと思います。



## お寺でサイエンス — 広島市こども文化科学館 —

今回の「気になるスポット探訪」は、「中・四国ブロック少年連盟指導者研修会」で行われました「お寺でサイエンス」をみなさんにも身近に体験していただきたいということで、広島市中区基町にある「広島市こども文化科学館」を紹介します。

広島グリーンアリーナの横に見える銀色のドーム型の屋根の建物が「広島市こども文化科学館」です。館内では、実際に触れて、見て、体験することで、科学を身近に知り楽しむことができるように様々な仕掛けや道具があります。

入口を入るとすぐ巨大な立体迷路があります。子ども達は一目散に飛び込んでいきました。1階から2階まで続く巨大な立体迷路にはいろいろな体験装置や空中廊下などもあり、体を動かして遊びながら科学を体験できます。巨大迷路で体を動かした後は、2階で鉄道模型を操作したり、太陽電池で動く車に光を当てて動かしたり、実際に遊びながら、私たちの身のまわりにある科学技術を学ぶことができました。

次にお待ちかねの体験コーナーです。身近なものをを使った実験から、科学館でしか見られないような装置を使った大がかりなものまで、科学に関するさまざまな実験を見ることができ「サイエンスショー」や、紙や木や家にある身近な材料を使って工作をする「たのしい工作室」などがあります。

今回は「サイエンスショー 電気のいたずら」に参加してきました。申込みは不要で当日でも見学できます。開催日時や内容が決まっていますので、事前にホームページなどでチェックして行かれると良いでしょう。

ショーでは静電気について、まず、下敷きや塩化ビニールパイプを使って、静電気でどのような物がくっつくのか実験し、次に、静電気発生装置を用いて、静電気をらせていただきました。大人も子どももたっぷりと学んで楽しむことができました。

施設は、「こども図書館」との複合で、周りには公園があり機関車(C59 161)なども展示してあるので、一日いても楽しむことができるのではないのでしょうか。



「サイエンスショー 電気のいたずら」では、塩化ビニールパイプや静電気発生装置を使って、「電気」を見ることができました

### 広島市こども文化科学館

所在地 〒730-0011 広島市中区基町5番83号

TEL: 082-222-5346

入館料は無料です  
(プラネタリウムは有料)

開館日・イベントカレンダー・サイエンスショーの内容・利用案内などの情報はこちらをご参照ください。

ホームページ <http://www.pyonta.city.hiroshima.jp/>



銀色のドーム型の屋根が目印です



1階入り口横、立体迷路の大型道具「たんけんとりで」があります



1階「天空の夢の国」にはボールキャッチャーなどの仕掛けがいっぱいあり、科学に触れることができます



2階「サイテック博士のおもしろ研究室」では、鉄道模型を操作したり、空気の流れの実験などができるようになっています

